



「夏の日」

(撮影者：嵐山町写真クラブ 村田吉正／埼玉県嵐山町・嵐山溪谷)

も く じ

○多仁照廣さんからひとこと	2	○ことばの基礎知識	6
○会館をご利用いただいた方の声	3	○調査研究・事業報告・資料の作成	
○事業の予告・募集		・平成18年度主催事業等実施報告書	6
・男女共同参画のための研究と実践の 交流推進フォーラム	3	・女性アーカイブセンター機能に関する 調査研究報告書	6
・女性のキャリア形成支援推進研修	3	○トピックス	
・女性のエンパワーメント国際フォーラム (開館30周年記念事業)	4	・嵐山さくらまつり 夢さくら展望ツアー	7
○事業の実施報告		○情報ネットワーク	7
・NWECCプログラム		○話題になりました	7
「イサム・ノグチの母、レオニーの人生」	4	○お知らせ	
・家庭教育・次世代育成のための指導者養成セミナー	5	・寄附金のお願い	8
・国別研修 カンボジア	5	・利用案内	8
・女性関連施設・団体リーダーのための 男女共同参画推進研修	5	・主な利用団体	8
		・展示コーナー	8



たに てるひろ 多仁 照廣 さんからひとこと

「女性アーカイブと女性史」

NWECの女性アーカイブ構築に携わるようになって3年目になった。NWECの建物がある武蔵嵐山は、母の郷里の東松山市の吉原の近くなので子供のころから馴染みがあった。その母は大正9年生まれで87歳になった。骨粗鬆症ではあるが、まだバス旅行ぐらいはできる元気はある。兄弟が多いのでだんだん親も名前をちゃんと考えるのが億劫になったのだろうか、生まれた季節をつけるようになった。“はる”という名前の由来だそう。関東大震災は郷里で体験し、竹藪の中に逃げたという。中世からの開墾農家であったが、明治になって財産を失い貧乏な上に大家族で妹を背負って学校に行った話をよくする。学校の教師になりたかったとしばしば話すので、よほど学びたかったのだろう。尋常小学校を終えると縁戚の東京上野の煎餅屋で行儀見習いをさせられていた時、白木屋の火事があり、上野から見に行ったという。2・26事件は怖かったとも話す。肥料問屋の息子と結婚したが結核で二度死に分かれ、戦時中は杉並で空襲にあい、長兄を戦争で失い、戦後の食糧難の時代には、子供や家族を飢えさせないように、郷里や多摩に通って、経済警察の目に留まらないようにコメやイモを運んだ。戦後、私の父と再婚し、倒産寸前の肥料問屋を父が立て直す陰の力となり、南方で両親を亡くした姉妹を大家族にさらに加えて養育した。幸い土地を得て父が倉庫を建て、亡くなると母が増設して家計は安定し、老後はまあまあ豊かに暮らしている。

私事で申し訳ないが、私にとって一番身近な“女性史”は母である。多分、多くの方は同じと推測する。しかし、母の人生の記録はほとんどない。書き残してもいない。

アーカイブという言葉の原義は、一枚の葉である。その葉の一枚一枚が記録として幾重にも積み重なって歴史が残されていく。官庁の記録のように律令時代から残すものとして扱われてきた記録と違い、個人の記録は残そうとする努力を誰かがしなければ何も残らない。まして記憶はなかなか残らない。一人ひとりの人生がまさしく一葉の落ち葉のごとく積み重なっていく人間の歴史を、文字記録だけではなく、非文字の記憶も含めて、どのように記録として残していくのか？ デジタルメディア時代だからこそ従来とは異なった情報の蓄積と発信の仕方があるのだろう。NWECの女性アーカイブが、多くの女性や息子に共感を得られるようなアーカイブに成長することを期待している。

プロフィール

現 職 敦賀短期大学地域総合研究所長
専門分野 日本近世・近代史
所属学会 地方史研究協議会、日本社会教育学会、文化財保存修復学会
著 書 『若者仲間の歴史』『青年の世紀』『山本瀧之助日記』
『多満自慢石川酒造文書』
『フツーの女性江戸&現代』（私家版）等

会館をご利用いただいた方の声

嵐山スケッチの会 吉田隆生さん（6/6 ご利用）

嵐山スケッチの会は、嵐山町の公民館で実施されていた水彩画の研修会から独立して、今年で3年目になります。メンバーは32名おり、嵐山町ばかりでなく川越市や熊谷市周辺に在住の方もいます。

私自身が社会教育関係の仕事に携わっていたこともあり、会館ができて以来、様々な研修やグループ活動などに利用してきました。現在も、日本庭園の美しい景色を気軽にスケッチできるので、よく利用しています。月に1回行っている会の活動では、敷地内のスケッチを行い、その後研修室で団体が招いた講師から作品について指導を受けています。



▲ 日本庭園でスケッチ

寺子屋プロジェクト 山口友里恵さん（6/16～17 ご利用）

寺子屋プロジェクトは、若者を対象に、人間関係形成を中心とした学習活動を行っている団体です。私たちが中心となって行っている活動は、その中で、ビジネスコーチングやライフコーチングなどの勉強会を、月3回程度都内で開いていることです。メンバーは企業などに勤める女性が中心です。メンバー同士の話し合いを中心に、いろいろな人との関係を通して、リーダーシップ養成などのスキルを学び合う活動をしています。

この団体での利用は初めてになりますが、会館は、私も含めて以前に来たことのある人がいたため、良い機会と思い利用しました。とても広くきれいで、自然も豊かな中で学習ができ、充実した2日間となりました。

今回は大部分のメンバーが和室に宿泊したのですが、洋室だけでなく、和室でもLAN接続ができるといいと思います。また、研修室や宿泊研修室でも無線LANが使えるととても便利だと思いました。



▲ 山口さん（右から2人目）とメンバーの方たち

事業予告・募集

男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（8月31日～9月2日）

男女共同参画社会の形成に向け、今、私たちが自らの意思で社会に参画し、社会を活性化していく課題と方法を見出す機会とするとともに、“研究”“学習”“実践”を結び、女性のエンパワーメントをめざす交流の場とします。

基調講演（板東久美子 内閣府男女共同参画局長）、片山善博前鳥取県知事らによるリレートーク、6つのテーマ（①女性のキャリア形成とチャレンジ支援、②科学技術分野への女性の参画、③安全・安心と男女共同参画、④地域の活性化と男女共同参画、⑤政策・方針決定過程への女性の参画、⑥男女共同参画の拠点づくり）によるワークショップを実施し、交流を深めます。

○主 題 女性のエンパワーメントと男女共同参画社会づくり
～新たな取組を必要とする分野への参画をめざして～

○期 日 8月31日(金)～9月2日(日) 2泊3日 ○会 場 国立女性教育会館

○対 象 男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー、研究者等。600名程度。

詳細は、ホームページ<http://www.nwec.jp/>をご覧ください。事業課までお問い合わせください。

女性のキャリア形成支援推進研修（10月10日～12日）

いま、活力ある社会を創造するためには、女性の個性や能力を十分発揮することが求められています。本研修は、女性一人ひとりが置かれた状況に応じて、柔軟にキャリア設計したり学習したりできるように、女性関連施設等におけるプログラムの立案、サポートシステムの構築等、キャリア形成支援に関する専門的・実践的研修を行います。

○期 日 10月10日(水)～12日(金) 2泊3日

○会 場 国立女性教育会館

○対 象 都道府県・政令指定都市の女性関連施設職員や女性団体・グループ・NPO等リーダーの方など。60名。

詳細は、ホームページ<http://www.nwec.jp/>をご覧ください。事業課までお問い合わせください。

事業予告・募集

女性のエンパワーメント国際フォーラム(11月20日・21日) 〔開館30周年記念事業〕

女性の人権、女性の能力開発・人材育成等地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、ネットワークづくりを進めます。今年度は開館30周年記念事業として、女性リーダーをテーマにしたシンポジウムと女性の人材育成をテーマにした専門家会議を実施します。

○期 日 11月20日(火)・21日(水)

○会 場 国立女性教育会館

○内 容 ・記念シンポジウム(20日)

「時代を開く アジアの女性リーダー(仮)」 ※日・中・韓同時通訳付(予定)

・専門家会議(21日)

「これからの女性リーダー像とは～行政・大学・企業・団体での人材育成支援(仮)」

※一般の方のご参加は記念シンポジウム(20日)のみとなります。

詳細は、ホームページ<http://www.nwec.jp/>をご覧ください。研究国際室までお問い合わせください。

事業の実施報告

NWECプログラム 「イサム・ノグチの母、レオニーの人生」



▲ 講演を行う松井久子氏



▲ 松井監督と松本教授の対談を聞く参加者

4月21日(土)、NWECプログラム「イサム・ノグチの母、レオニーの人生」を開催しました。参加者は、100名(女性86名男性14名)でした。

脚本家であり、映画監督の松井久子氏が、「ユキエ」「折り梅」に続く第3作「レオニー」(仮題)の制作を前に、レオニーの人生やご自身の映画づくりにかける情熱について語りました。

最初に、松井監督最初の映画作品「ユキエ」を上映し、参加者が直接、監督の作品に触れる機会を提供しました。続く講演「映画と私」では、松井氏に映画制作のプロセスとそれぞれの段階でのご苦労を、様々なエピソードを交え語っていただきました。最後のプログラムである映画評論家・十文字学園女子大学教授の松本侑壬子氏との対談「女性監督の活躍・映画を支える観客」では、映画「レオニー」について、なぜ彫刻家イサム・ノグチの母、レオニー・ギルモアの生涯を取り上げるのか、「女性として真の自立とは何か」について意見交換がなされました。また、松井氏の女性監督としてのご苦労や、リーダーシップの発揮等についても語られました。

参加者からは「本当の女性の意志でなしとげた映画のすばらしさを感じました。レオニーの人生に期待しています」等の意見があり、参加者の満足度の高い充実したプログラムとなりました。

事業の実施報告

家庭教育・次世代育成のための指導者養成セミナー

5月18日(金)～19日(土)の1泊2日で、「家庭教育・次世代育成のための指導者養成セミナー」を実施しました。家庭教育・次世代育成支援の取組として、本当に支援を必要としている人まで支援を行き届くようにしていくことが、大きな課題として挙げられます。

今年度のセミナーでは、現在行われている「アウトリーチ」の先進事例を通して、支援のSOSを求められるのを『待つ』のではなく積極的に『届ける』ための方策について検討しました。

全国各地から105名の参加をいただきました。行政担当者、子育てネットワーク等のリーダー、企業関係者、女性関連施設職員、幼稚園教諭、保育士、民生委員等、地域の子育て支援ネットワーク形成上、重要な役割を担う多様な立場の方々がお互いに情報交換・交流を深める貴重な機会となりました。



▲「家庭教育に関する国際比較調査」のデータを読み解くワークショップ

国別研修カンボジア

5月22日(火)～6月18日(月)まで、カンボジアの女性省から3名、統計研究所から1名の若手職員が来日し、研修を実施しました。

本研修は、JICAが行っているプロジェクトの支援を目的に2004年度から開始し、今回が最終年です。会館で20年来取り組んでいる男女共同参画統計に関する調査研究の成果を活かして研修を企画し、会館ボランティアの協力も得ながら、カンボジア行政官の人材育成に寄与しようとしてきました。

本年度は4年間の総まとめとして、政策担当者が使うための男女共同参画統計ブックレット（英文、A6サイズ、80ページ）を作成しました。政策の軸にそって編集した統計データ集として、カンボジア各省庁で今後活用されることを期待しています。



▲真剣な表情でブックレットを作成する研修員

女性関連施設・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

6月13日(水)～15日(金)の間2泊3日で「女性関連施設・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」を開催しました。女性関連施設の管理職53名、女性団体・グループ・NPO等のリーダー57名合計110名の参加を得て、男女共同参画社会の形成に向けた女性関連施設・団体の役割を認識し、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行いました。終了後、「各センターの課題がよく見え、解決の方法、手立て、工夫が明確になった。」等の感想が寄せられ満足度の高い研修となりました。



▲神田理事長の開会のあいさつを聞く参加者

ことばの基礎知識

男女共同参画統計

男女共同参画社会形成の推進を進めるためには女性と男性の置かれている状況を客観的に把握することが必要です。男女共同参画統計は男女共同参画を進める上での問題を統計によって明示し、分析し、問題解決に向けての目標設定や進捗度監視に統計を使おうとする新しい統計の分野であると考えられます。こうした動きは日本だけではなく、国連を中心とする国際統計機関によるGender統計指標の提起という形で1990年代から前進し、特に1990年代後半に活発化したといわれています。

男女共同参画統計は統計データを男女別に示しただけのものではありません。男女共同参画に関わる課題を示す統計なのです。ですから労働や教育や生活時間等の様々な分野の個人に関するデータだけではなく、性別の表示がなくても男女の生活に密着する環境に関する統計、例えば企業や制度に関わる統計でも仕事と家庭の両立支援の統計は男女共同参画統計と考えることができます。

2005年12月27日に国では男女共同参画（第2次）が策定され、それぞれの分野で数値目標が示されています。例えば、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大においては「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する。」と記載されています。都道府県、市町村でも男女共同参画プランの改定が進んでいますが、どのような目標値を設定するのが大きな課題になっています。そのためにも地域において男女共同参画統計の充実を図っていくことがさらに求められるのではないのでしょうか。

調査研究・事業報告・資料の作成

平成18年度主催事業等実施報告書



平成18年度に会館で実施した事業の実施概要及び成果を「平成18年度国立女性教育会館主催事業等実施報告書」としてまとめました。

女性関連施設に関する調査研究、女性のキャリア形成支援のためのプログラムに関する調査研究、家庭教育・次世代育成支援のためのプログラムに関する調査研究、女性関連施設・団体リーダーのための男女共同参画推進研修、家庭教育・次世代育成支援指導者研修等の新規事業をはじめ、その他の事業や、会館におけるボランティアの活動等についても掲載しています。

この報告書は、都道府県教育委員会、女性関連施設、女性関連団体、社会教育・生涯学習センター等に配布しました。

女性アーカイブセンター機能に関する調査研究報告書



女性関係の史・資料を整理・保存・提供する女性アーカイブセンター（仮称）を会館内に設立することを目的として、平成17・18年度の2年間にわたって実施した調査研究の成果が報告書になりました。

本調査研究では、女性関係資料に関する初めての全国規模の所蔵調査を実施し、女性関係資料が全国の機関・団体に散在し、その全容が把握されていない、という現状を明らかにしました。

また、女性関係資料を対象とした収集・整理・提供方法について具体的なノウハウを提示し、各地域における女性アーカイブ構築の指針・ガイドとしても活用いただける構成となっています。

トピックス

嵐山さくらまつり 夢さくら展望ツアー

会館のある嵐山町では、3月25日(日)～4月8日(日)の間「嵐山さくらまつり 夢さくら」が開催されました。これに対する協力事業として、「国立女性教育会館 夢さくら展望ツアー」を4月7日(土)～4月8日(日)にかけて実施し、2日間で計51名の参加をいただきました。昨年に引き続き、1日3回、会館ボランティアの協力により、会館の南を流れ桜並木のある都幾川堤から会館までのご案内を行い、館内施設の紹介と、普段は立ち入りできない8階建て宿泊棟の屋上から、都幾川の桜並木や周辺の風景を楽しんでいただきました。実施した2日間でちょうど桜が満開となり、2kmにわたる桜並木が一斉に咲きそろった様子を満喫していただくことができました。



▲ 会館ボランティア（中央・こちら向き）の説明に耳を傾ける参加者

情報ネットワーク

「男女共同参画人材情報データベース」のデータを更新しました

このデータベースは、会館の各種事業にご協力いただいた講師、委員等の方々の情報について、ご本人に許諾をいただいた項目のみ公開しているものです。

このたび更新のための調査を行い、更新が終了しました。現在600名弱の方の情報を掲載しています。

<http://winet.nwec.jp/persons-search/>より、講師探し等のご参考に、ぜひご活用ください。



女性教育情報センターに閲覧用個室ができました

女性教育情報センターは女性・家庭・家族に関する専門図書館です。

10万冊以上の図書、3千タイトル以上の雑誌、20万件以上の新聞クリッピング等の豊富な所蔵資料を活用し、静かな環境で調査研究に専念していただけるよう、情報センター内に閲覧用の個室を2室ご用意しました。

会館に宿泊しながら、じっくり調査研究してみませんか？ご利用お待ちしております。（予約は女性教育情報センターまで。）



話題になりました

○会館に関する事がマスコミ等に取り上げられたものを紹介します（4月～6月）

- 埼玉新聞 4/2 理事長の随筆『月曜放談』（月1回程度で、6回シリーズの4回目）
国蝶の「オオムラサキ」が生育する会館あたりをNWECプログラム「里山を体験しよう」と題し、地元のNPO法人「自然の会 オオムラサキ」の方々の協力で学習会を開いた。里山を歩いてみて、里山を残し、つくることは、生き物のためと同時に、人間にとって近くにある自然にふれる癒しの場としてかえがたいものである。
- 朝日新聞（埼玉版）4/11
『私の1枚』と題し、思い出の1枚の写真についてのインタビュー記事。写真は会館敷地内で満開に咲いた八重桜の下で埼玉県地婦連の役員の方々と一昨年撮影したもの。この桜は開館間もない頃、地婦連の「緑の1円募金運動」によって植樹されたもの。また、会館が他機関との統合問題に直面したときも、単独存続に向け強力に活動してくれたのが地婦連であると。
- フジサンケイ ビジネスアイ 5/16
開館30周年を迎える今年、11月20日の記念式典、それに合わせた国際フォーラムや女性アーカイブセンターの設立等。会館の役割について1ページの半分以上を割いて、同紙論説委員、原誠氏がインタビューした記事。
- 埼玉新聞 5/21 理事長の随筆『月曜放談』（月1回程度で、6回シリーズの5回目）
「自立」について、自立は他との関係を貧しくする方向ではなく、豊かな個として生きることを進める方向での関係をつくること。多様な経験の中で、自分と異なる考えに出逢うことで考えも深まっていく。そうした過程を経て、独自の個が形成されると。
- ラジオ日本 6/22
『こんにちは！鶴時靖夫です』に出演。会館の施設紹介、開館30周年記念事業、男女共同参画で男女が平等に活躍できる社会づくりの大切さ、今後の抱負等について鶴時氏と対談。
- 埼玉新聞 6/25 理事長の随筆『月曜放談』（月1回程度で、6回シリーズの最終回）
「女性アーカイブセンター」設置について。書店や図書館が扱う図書や雑誌ではなく、個人の日記や手紙、原稿、写真やポスター、チラシ、録音テープなどのいわゆる生の資料を収集、整理し、研究や研修等の学習事業に活用することを目的にしていると。

お知らせ

● 寄附金のお願い

又エックではより充実した業務遂行のための経費に充てるため、寄附金を含む外部資金を受け入れております。今後とも事業の充実、運営の改善及びサービスの向上に努めてまいります。皆様方の暖かいお篤志を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い致します。

◎寄附金に対する問合せは総務課へ

一定の金額までの寄附金については、法人及び個人の場合ともに税法の規定により所得から控除されます。

● 利用案内

※ 休館日（平成19年8月～20年9月）

平成19年	12月 3日(月)・17日(月)・18日(火)・28日(金)～31日(月)	4月の休館日はありません
8月の休館日はありません	平成20年	5月12日(月)・19日(月)
9月 3日(月)・18日(火)	1月 1日(火)～ 4日(金)・21日(月)・22日(火)	6月 2日(月)・16日(月)
10月 1日(月)・15日(月)	2月 4日(月)・5日(火)・18日(月)	7月 7日(月)
11月 5日(月)・19日(月)	3月 3日(月)	8月の休館日はありません
		9月 1日(月)

注) ①休館日前日の宿泊と当日の朝食はご利用いただけます。

②休館日も電話・FAX・E-mailによる申込の受付や利用相談などは行っています。

③会館ホームページではいつでも施設の空き状況等がご覧になれます。

申込専用電話：0493-62-6723 ファクス：0493-62-6720 ホームページ：<http://www.nwec.jp/> E-mail:yoyaku@nwec.jp (予約専用)

● 主な利用団体（平成19年4月～6月）

4月

2日～ 3日	お茶の水女子大学文教育学部英語圏文化コース
8日	入間市オリエンテーリングクラブ
11日～13日	星美学園高等学校
12日～14日	聖母大学
13日～14日	十文字学園女子大学短期大学部英語英文専攻
15日～16日	大妻嵐山高等学校 共立医療秘書専門学校
16日～18日	関東学園大学付属高等学校
18日～19日	早稲田医療技術専門学校
19日～20日	東京都立八王子桑志高等学校
20日～21日	埼玉純真短期大学
21日～22日	東京女子大学文理学部日本文学科 東京女学館大学
21日～23日	法政大学キャリアデザイン学部
24日	埼玉県教育局西部教育事務所
24日～25日	白梅学園短期大学心理学科
24日～26日	川口市立看護専門学校第1看護学科
25日～27日	太田看護専門学校
30日～5月2日	大宮歯科衛生士専門学校

5月

1日～ 2日	東京・生活者ネットワーク
9日～10日	滑川総合高等学校
10日～12日	城西大学経営学部
20日	アニメ「雲の学校」嵐山上映委員会
23日～25日	勲日本キリスト教婦人矯風会
26日	全埼玉私立幼稚園連合会西部ブロック
31日～6月1日	人間総合科学大学健康栄養学科

6月

1日～ 3日	日本アノレキシア・プリミア協会
2日～ 3日	子どもと文化のNPOこども劇場
6日～ 8日	さいたま市立高等看護学院
9日	埼玉県人権保育研究会
9日～10日	足立区私立保育園連合会
11日～12日	全国地域婦人団体連絡協議会
15日～17日	全国保育団体連絡会
16日	日本保育協会埼玉県支部
25日～29日	文部科学省平成19年度教職員管理主事等研修講座
29日～30日	関東ハーモニカ連盟
30日～7月1日	㈱東京保育室センター

● 展示コーナー（7月～9月）

「科学技術分野のキャリアを目指そう！」

現在、科学技術分野における女性の活躍促進にむけて、様々な取り組みが行われています。一人でも多くの女子生徒・学生が、科学技術分野に関心を持ち、キャリアを形成していくための方策を考える資料を、1階エントランスホールに展示中ですので、是非ご覧ください。

* 展示資料例 「理系に行こう！：女子中高生のための理系案内」

「高校における女子の〈文理〉選択と大学進学動向：大学生調査の再分析を中心に」

「Petit curia：夢をカタチに理工系STYLE：女子中高生のための理工系進学マニュアル」

※展示のリストはホームページに掲載しています。<http://www.nwec.jp/jp/center/page05.html>



訂正とお詫び 本誌117号の記事中に誤記がありました。お詫びして訂正いたします。	4ページ(6)アジア太平洋地域の女性リーダーエンパワーメントセミナー、「時期等」の曜日 誤：平成20年1月10日(木)～19日(出) 正：平成20年1月10日(金)～19日(出)	8ページ「アジア太平洋地域の女性リーダーエンパワーメントセミナー」の記事中 誤：財団法人市川房江記念会 正：財団法人市川房枝記念会
---	--	--

編集後記

- 今年は開館30周年。広い敷地にある樹々は大きく成長。職員は皆忙しく仕事をしていますが、ふと窓の外に目を向けると、森の中の別荘で仕事をしているような錯覚に……。[忙中閑あり]。
- 人の性格は様々。ここ4人の企画チーム、ちゃきちゃきの江戸っ子でせつかな中年女性、関西弁でおっとりした若い女性、地元出身でマイペースの男性。え！私の事、秘密にしておきましょう。
- いよいよ本格的な夏、今夏は猛暑の予報が出されています。子どもたちにとっては楽しい夏休みですが、熱中症には十分注意が必要です。もちろん、大人たちも注意を怠りなく。

又エックニュース第118号

平成19年7月25日発行

編集発行 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

☎ 0493-62-6711 (代表)

FAX.62-6722 (総務課) 62-6720 (事業課)
62-6721 (情報課) 62-9034 (研究国際室)

ホームページURL <http://www.nwec.jp/>
E-mail webmaster@nwec.jp

この紙は再生紙を利用しています。